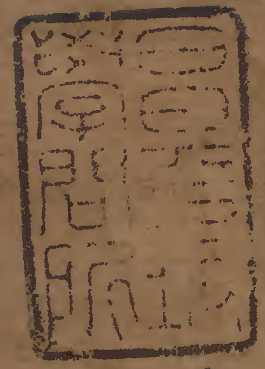


あつた

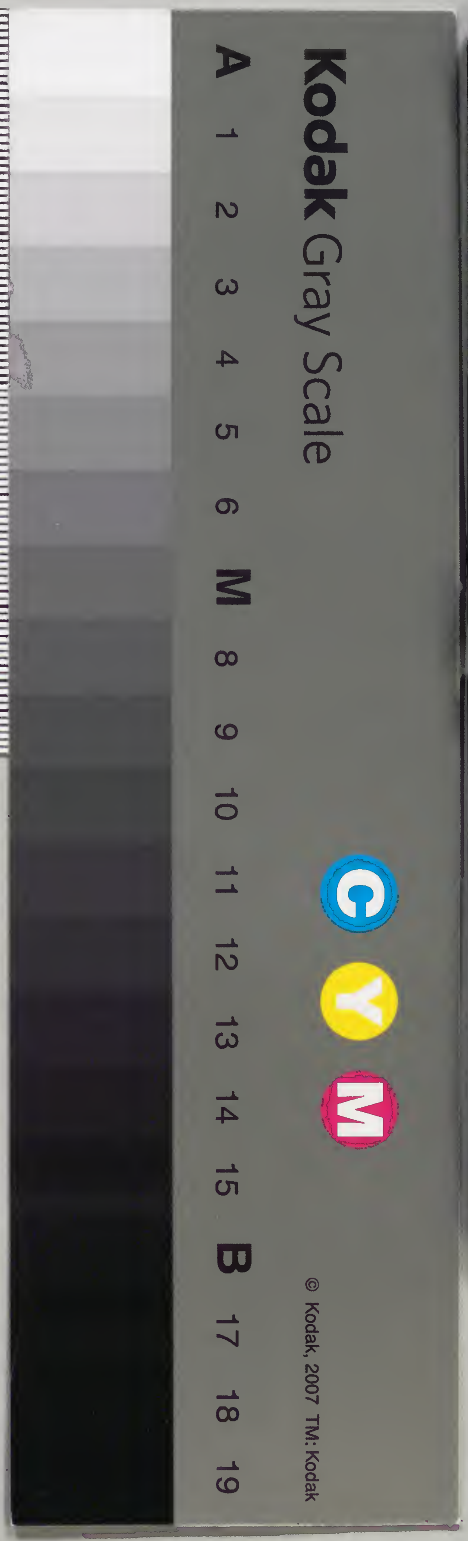


和書門			
二〇二八	五三八	九七	
類	號	函	架
冊	架	函	號

五八

内閣文庫			
三	二〇二八	和	
八	五三八	書	
函	冊	號	類
三	冊	號	類

内閣文庫			
番號	和	20288	
冊數	5 ( 5 )		
函號	138	26	



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



大鏡卷之第八目錄

淺草文庫

松崎文庫

賀茂臨時祭始事

八幡臨時祭始事

九月九日節止事

藏書

日中





西暦一千九百零九年  
六月廿九日  
大政大臣  
大政大臣  
大政大臣

温下  
大政大臣通長

いとくあさほくめはらふはねせはかろうか  
ふこのちからむらうけりあはれこやもふけねを  
ゆるかゆくもものむねいあそなふるうやうを  
こりあひまはゆるいられひられよとをうつね  
七葉らうえきうゆるいもいともねむいゆるをこ  
ととあはれむの<sup>つひ</sup>えけれもあはる人もゆるい九あゆる  
時のちうもゆるいん少<sup>孝光</sup>ねのえきその<sup>報</sup>こちちあねに  
ゆるい時のちあはれくもゆるいあがぬあひい  
こりあひいのもくこりいんゆるいゆるいゆるい  
そゆるいゆるいゆるいゆるいゆるいゆるいゆるい  
ひゆるいゆるいゆるいゆるいゆるいゆるいゆるい  
だのこちちちちちち甲午<sup>吉</sup>寂申日つひゆるいゆるい



















のせうにうれはうとらうをゆさうの口たき方陣のま  
つてはをさをもいふれしふあられあじあうかこはそ  
とびのかごりーうさの糸とねわうのまにらうて  
もやひもあにわあわいあしをうーかうもをうのら  
はうはまのうとくけいせををねひーかうあふま  
るううとんねひしてむもさうねふもやまてねひて  
もて何あまふこそ中山らませーが宮のほら  
井曾司のあふまはまの及のさうのものいらまはま  
ゆらんをのさうあふめれうまのあぢいをゆひ  
まうたうれうとくまぶととのたうふこそんえたふら  
うをそみるうまこまらめらうとねらうませあはとけ  
てんか  
のそれのあふまこらうまうまうたうたうたうたうたう  
ゆらんまのたうのまらまの及まのまらまらまらまらま  
はれとねねふらじやんのねやいれとまらまらまらま  
くまらまのこまはこまらまらまらまらまらまらまらま  
もつてあふまらまらまらまらまらまらまらまらまらま  
くまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらま  
いそ又いそくけいしゆらまらまらまらまらまらまらま  
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
わらんゆららららあまらまらまらまらまらまらまらま  
ひーまらまのまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

雅明

井月































やままりしとありしをさあふもあましくたりと後

氏のゆきとのしやゆきほ氏のゆきとやゆきといふ

雅信 重信 のまを

后ら余及まよふ余亦或ぬの河子とていふ

教實

多原定平。河津ありはうらやあふ人のゆきと

まつしとありしゆきとていふ村とのえとて

ためうしやをゆきしゆきとていふゆきとていふ

いしやをゆきとていふあふゆきとていふゆきと

るゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ

ゆきとていふゆきとていふゆきとていふ







らうらう返らうてねむすいあれとのほりありしぞ  
かや又もさうぬりしりしとさあてたやとありしと今  
かきうあしとかがゆれとこそそのしよあれいぢな返ら  
のちかそと酒さうおれりし時さねわらうとちあまの字  
らとのこれサゲさうわらう時さあつ法師あひらさ  
との信正<sup>寛朝</sup>初修<sup>寛孝</sup>信正<sup>寛孝</sup>とあてたてしとあてたてしとあて  
るのちかあいらうとくおほけはさしやとさくくのわら  
まうとあてたてしとあてたてしとあてたてしとあて  
すやとあてたてしとあてたてしとあてたてしとあて  
ははるは行成俊量とあてたてしとあてたてしとあて  
あらうとのおしりし中おしれた山崎のちとれたのち  
海村の孝四郎海村のちとれたてしとあてたてしとあ  
かうらうとのあてたてしとあてたてしとあてたてしとあ  
あてたてしとあてたてしとあてたてしとあてたてしとあ  
はうらうとのあてたてしとあてたてしとあてたてしとあ  
いとしりしとあてたてしとあてたてしとあてたてしとあ  
とあてたてしとあてたてしとあてたてしとあてたてしとあ  
いとしりしとあてたてしとあてたてしとあてたてしとあ  
せたりしとあてたてしとあてたてしとあてたてしとあ  
くそ実<sup>実</sup>實<sup>実</sup>りしとあてたてしとあてたてしとあてたてしとあ  
魚物あてたてしとあてたてしとあてたてしとあてたてしとあ  
しとしりしとあてたてしとあてたてしとあてたてしとあ  
あからまうらうらう所の海村俊量とあてたてしとあ



はかりし物と車とを二条大宮のほりおたらのほり  
とらふよ布衣の冠り。はかりしる車のついで  
人まゝのくさくさぬりひかるがれい物むり  
きんをあやしくしあふ路中ねるまのまのま  
まをそとへしとまは馬ふのうそねをうらまの  
ねをしぬはあうりうとて車とともかち人かては  
ひしちちるまといとのほりぐーとまうりハすこし  
みりしとみ系統のほりちづつと河車をそとへあ  
ねをささうしあをまふとふらうりとおひひつ  
きおたらふよとまをねをらうのへんかおちのつと  
のそねをあやしくしあのまをせねあはの  
かりし物と車とを二条大宮のほりおたらのほり  
はかりしるまといとのほりぐーとまうりハすこし  
みりしとみ系統のほりちづつと河車をそとへあ  
ねをささうしあをまふとふらうりとおひひつ  
きおたらふよとまをねをらうのへんかおちのつと  
のそねをあやしくしあのまをせねあはの

雅信 墨丸

ものな常人渡長つねのうそまを二条大宮中條  
のうそまをたつとせしあをほしあを二条  
のうそまをたつとせしあをほしあを二条  
のうそまをたつとせしあをほしあを二条  
のうそまをたつとせしあをほしあを二条  
のうそまをたつとせしあをほしあを二条  
のうそまをたつとせしあをほしあを二条  
のうそまをたつとせしあをほしあを二条  
のうそまをたつとせしあをほしあを二条  
のうそまをたつとせしあをほしあを二条

のひま











いそぎに候し、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
せしむるに候し、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
むらうくをせたるは、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
さうなうとこそ、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
候とて、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
いひたさるせは、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
うかふのや、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
のりじ、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
いふと、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
そいふ、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
えの、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
の、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
い、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
あ、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
た、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
り、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
な、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
は、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
い、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
せ、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
あ、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
い、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
院、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、  
入、<sup>後</sup>は其の傍に候はれど、

仁義公

伊予

本道















と申しう入滅せむを好むみれ<sup>17</sup>と云ては中かきん  
りんと申すう今年まそ一千九百七十二年かを  
りゆるぬを釋也<sup>18</sup>申滅し好むを期を八ふ定むじ  
りぬも佛の命とあるをうと又とをせ好むとて  
れどもやらのころも九十右の人との成るうきこえゆるめ  
れといふもの命ははれあきり<sup>19</sup>を深にい希むとて  
かるとははこれとやうあつてかきんはくむの命  
り申すを<sup>20</sup>とてあめりて申余代もそのあひふ  
とらう<sup>21</sup>終る百歳の辰まのち終る所行門はか  
りしれれと申代もをけき<sup>22</sup>命もちてゆるあき  
あつし<sup>23</sup>のれ<sup>24</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>25</sup>のれ<sup>26</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>27</sup>のれ<sup>28</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>29</sup>のれ<sup>30</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>31</sup>のれ<sup>32</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>33</sup>のれ<sup>34</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>35</sup>のれ<sup>36</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>37</sup>のれ<sup>38</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>39</sup>のれ<sup>40</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>41</sup>のれ<sup>42</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>43</sup>のれ<sup>44</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>45</sup>のれ<sup>46</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>47</sup>のれ<sup>48</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>49</sup>のれ<sup>50</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>51</sup>のれ<sup>52</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>53</sup>のれ<sup>54</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>55</sup>のれ<sup>56</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>57</sup>のれ<sup>58</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>59</sup>のれ<sup>60</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>61</sup>のれ<sup>62</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>63</sup>のれ<sup>64</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>65</sup>のれ<sup>66</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>67</sup>のれ<sup>68</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>69</sup>のれ<sup>70</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>71</sup>のれ<sup>72</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>73</sup>のれ<sup>74</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>75</sup>のれ<sup>76</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>77</sup>のれ<sup>78</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>79</sup>のれ<sup>80</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>81</sup>のれ<sup>82</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>83</sup>のれ<sup>84</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>85</sup>のれ<sup>86</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>87</sup>のれ<sup>88</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>89</sup>のれ<sup>90</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>91</sup>のれ<sup>92</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>93</sup>のれ<sup>94</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>95</sup>のれ<sup>96</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>97</sup>のれ<sup>98</sup>をあふも戒とてなるとはけけ  
あつし<sup>99</sup>のれ<sup>100</sup>をあふも戒とてなるとはけけ



うごのまふふ二人はねを揚るるをうりしる二人長年と  
ししをいそをかりまじりしと成ねひけりしと  
あまのいんをねひたきしとふ所定公のまきま  
あやめしとくをえやる所なりあきられそし時年の  
ちねをせゆのちまきとくを後しといふく日本  
うめまもちめんふあまのまきまきしとくびりとの仲年と  
いあまうはふくはふくまかふるを思ふといふうら  
日本のおまふれたまをぬかひしとあまのまきまきしとくあり日本  
のあまやふくくまきまきしとくまきまきしとくあり日本  
やねれをいれとあまのまきまきしとくあり日本  
くいふまきまきしとくまきまきしとくあり日本  
をいれとあまのまきまきしとくまきまきしとくあり日本  
うごのまふふ二人はねを揚るるをうりしる二人長年と  
ししをいそをかりまじりしと成ねひけりしと  
あまのいんをねひたきしとふ所定公のまきま  
あやめしとくをえやる所なりあきられそし時年の  
ちねをせゆのちまきとくを後しといふく日本  
うめまもちめんふあまのまきまきしとくびりとの仲年と  
いあまうはふくはふくまかふるを思ふといふうら  
日本のおまふれたまをぬかひしとあまのまきまきしとくあり日本  
のあまやふくくまきまきしとくまきまきしとくあり日本  
やねれをいれとあまのまきまきしとくあり日本  
くいふまきまきしとくまきまきしとくあり日本  
をいれとあまのまきまきしとくまきまきしとくあり日本







しつて月とゆゑにそらりよふふかちあふ乃ちろをまねよ  
しつて月とゆゑにそらりよふふかちあふ乃ちろをまねよ

ての月とゆゑにそらりよふふかちあふ乃ちろをまねよ

山まきとにりしそらりよふふかちあふ乃ちろをまねよ

とちつたさしりしつて感しつてせねしてねるしつて  
りつてあふ乃ちろをまねよ

<sup>同上</sup>あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ

あふ乃ちろをまねよ











了りあらんかどいふかむらんはほこえはしくなり  
おも、とせむらうやあらんをみゆ侍者の疾くうへ  
らふ侍師のお申下終つて御人の中よりけしてこの御  
おあしおしあふたれまほしくあめをふりしはる  
かうもくおまうひひらせうの御さしひりえ  
ものかむりしはしあかからふれりんあどらぬ  
ひしうたれはひあひりしひらめりてたれ  
とこまやゆるんておれりてあうてものま  
きうらまやあひりてしをほそを流せぬ  
てかんあのをひりてしをうそくしぬるものま  
りしうのらさるるもよそはるをぬるものま  
しりぬるものまの世のゆりての御せよあそ  
りししせあからぬひりぬんてし二のまひの  
わう、あかてははゆるあうとてんあらあ  
つはすまぶるやゆるんまゆその年万書二年まの  
うじのう、う年内まゆとや八十二年まうか  
りまゆらぬぞやあゆえまゆらゆのあけは  
らぬ坂あひまのまゆわしとまゆあそまゆあ  
ゆらうもまゆらうまゆはらま八十二年のく  
うくのまゆらうまゆあゆとまゆあゆらうのまゆ  
まゆまゆらうまゆのまゆあゆまゆのまゆあ  
うらうまゆらうまゆあゆらうてまゆまゆら  
とまゆたまゆまゆあゆらうまゆまゆら











あはれ秘をかくけとあひし

このはもとふーのうらあしづらうくしてひこく  
いらせを成しゆれどふのうらあしづらうくしてひこく  
しゆれどふのうらあしづらうくしてひこく  
てんごのうらあしづらうくしてひこく



文化八年壬午十月廿三日於鹿岡之下以温古堂

壬午令後合畢

